

令和6年度 第4回学校評議員会報告

本日、早稲田大学教職大学院教育学研究科客員教授の岩永 章 様にお越しいただき、学校関係者評価委員会を開催いたしました。

今年度の、「学校評価アンケートの結果」と「自己評価」をご説明申し上げ、以下のとおり、評議員の皆様からご意見、そして岩永教授からは資料をもとにご指導・ご助言をいただきました。

**評議員の皆様より**

- 「生徒の様子」が改善されているのは良いことである。
- 「基本的生活習慣」については、服装はしっかりしているが挨拶ができないなど、完璧ではないが一部に不安要素があると保護者は感じているのではないか。
- 「分かる授業」については、親よりも子どもの評価が高く、そちらの方が信憑性がある。
- 「学習習慣」は子どもの評価が親の評価よりも高いのは、自分に甘いということではないか。
- 「情報教育」は、親からすると学校でどこまでやっているか、本当に学習しているのかが分からない。
- 「社会性・人間性の育成」の項目が、全体的に肯定的回答が高いのは、学校でSNSの使い方など基本的なことを教えてくれているのからではないか。
- （「教育相談」について）保護者の立場からすると、先生方も忙しいから保護者会などで相談したいことがあっても相談できないこともある。気軽に相談できる機会があるといい。
- 「人間関係づくり」で生徒の評価がとても高いのは、すごくいいことである。
- 「相談への対応」で生徒の評価が高いのは、先生方の目が生徒に向いている証拠だと思う。
- 「ボランティア活動」で、歳末助け合いの募金活動の三中の活躍がすごい。声が大きくて募金も集まる。ずっと続けているが、5年前よりもどんどん良くなってきている。

**岩永教授より**

- 結論は「子どもたちや三中のために、保護者や地域が学校の応援団になってほしい」ということをお伝えしたい。
- 「評議員の皆様が受けた教育とは、今は全く違う。改革というより革命である。」ということについて、配付資料をもとに説明されました。